

平成27年度 学校経営計画 (最終評価)						
目標 (1)アクティブ・ラーニング(AL)の機会を増やして主体的な学習者を育成し、生徒が自らのキャリアを開発していく能力を伸ばさせて進路を保障する。 (2)生徒が安心・安全・快適に生活できるよう、品格と規律のある学校生活を確立するとともに、IT化を推進し、学習環境の一層の充実を図る。 (3)生徒の自主的な活動を一層活性化し、部活動やボランティア活動の充実を図るとともに、カリキュラムを工夫し、ESD(持続発展教育)を推進する。						
担当部署	具体的な計画	達成基準	中間期の達成状況	中間自己評価	最終達成状況	学校関係者評価
(1)アクティブ・ラーニング(AL)の機会を増やして主体的な学習者を育成し、生徒が自らのキャリアを開発していく能力を伸ばさせて進路を保障する。						
教務課	○授業内容の充実 研究主任を中心に、授業研究委員会と協力し、教科の指導力の向上を目指す。 ①学習者が自己の学習を省察する機会と評価について指導者が実践しやすくなるように、情報提供を行う。 ②年間を通して、多くの教科で、テーマを設定しての研究授業(初任者研修を含む)を実施できるよう調整・計画・実施する。	○課メンバー全員が空き時間に最低週1回は授業巡回できるよう計画し、授業の様子を気軽に参観できる雰囲気を引き続きつくる。 ①-1 学習の省察と評価方法に関する本校の実践事例や他校の先進事例について取組・研究し、紹介する。 ①-2 10月末までに教員および生徒を対象とした授業アンケートを行う。その結果、省察に関する教職員の実践が8割を超え、各授業アンケートにおける生徒の自己の成長を評価する数値が8割を超える。 ②-1 研究(公開)授業の円滑な実施ができるよう、教科間の調整をする。 ②-2 研究(公開)授業および研究協議を実施する。その際、参加者・出席者が増えるよう工夫する。またその成果を全教職員で共有できるように情報とまとめる。	①-1 校内の実践事例については、10月末実施予定の授業アンケートによって情報を収集予定である。校外の先進事例の収集につながるべく、校外の公開授業への参加を促しているところである。 ①-2 10月末実施に向けて今年度の授業アンケートについての検討中である。 ②-1 授業工夫アンケート(全教員対象・10月実施)の結果から、振り返り(省察)を実施しているが92.2%。生徒対象の授業アンケートでは85.2%ととも目標の8割を達成できた。 ②-2 どののび(び)研究授業を年間3回実施できるように地産・学産・商産・保体の教科で調整・実施した。 ②-2どののび①研究協議として、全教員による研究協議を実施し、生徒の「のび」が実感できる場面や授業づくりについて協議した。 ②-7 生徒の「のび」をどのようにとらえるのか。また、生徒の「のび」が実感できるのは授業のどのような場面か。 ②-11月・Cの生徒をどのように指導するか。 ②-12月・授業の中で成績の上位の生徒の「のび」をどう工夫するか。その一方法としてのグループ活動をどのように活性化させるか。 また、1月の職員会議後には教科ごとに授業改善の報告会を実施し、質的にも教員の授業改善の工夫と向上が見取された。	B	A	A
教務課	①生徒の興味・関心が授業に注がれるよう配慮し、学力をより向上させるための授業改善に取り組む。 ②普通科キャリア探求科の新型型に応じた進路指導を推進する。 ③基礎学力の充実、授業や基礎学力テスト等を行い、学習内容の定着を図る。 ④各教科や探究学習等において、課題の内容及び評価の検討をし、家庭学習時間の増加を図る。また、学習態度調査等を活用し、面談等で改善を図る。 ⑤定期考査だけでなく、校外模試などの試験に対して「勉強を諦めない」姿勢を育成する。 ⑥校外模試での個々の生徒データを分析し、各教科での授業や土曜塾や補講などの指導に生かしていく。 ⑦各種資格検定取得を推奨する。普通科の就職希望者に対して土曜塾の参加などを促す。 ⑧探究学習の成果を進路指導に結びつけ、AOや推薦での国公立大学、有名私立大学(GTZ・B3以上)の合格者を増やす。 ⑨進路が決まった後も学力の向上に努める。自分の進路の振り返りをし、卒業研究の発表を行う。 ⑩従来の夏就職補講に加え、基礎学力テストや授業心得などを全教職員で取り組み、就職希望者に対しての指導を充実させる。	①教務課と協力し、学習評価の工夫やICT機器やOPPの活用などにも積極的に取り組まれる。 ②普通科キャリア探求科とも新型型の選択において自分の進路実現に向けた科目選択ができるように推進する。 ③基礎学力テストにおいて、全クラスとも平均点が上昇する。各学年のGTZのD3の割合が30%未満にする。Dゾーンの割合を70%未満にする。 ④家庭学習時間30分以内をゼロにする。 ⑤各教科においては、土曜塾などを利用して校外模試などの事前事後に問題の活用を推進する。 ⑥GTZのB3以上の人数を昔々合わせて各学年10%以上にする。 ⑦キャリア探求科については、全商3種目1級を2名以上、普通科の土曜塾(資格)の受講者10名以上。 ⑧国公立大学・有名私立大学(GTZ・B3以上)合格者5名以上。 ⑨自己振り返りのアンケートを行い、「よかった」の割合が70%以上。 ⑩6年連続就職内定率100%。	①ICT機器やOPPの活用は、各教科で積極的に取り組まれていた。今後、教務課との協力のもと、各教科での実践例等が共有できるようにしたい。 ②1学期に科目選択を行い、教務課の教科書係と連携を取りながら、進路にあった選択であるかを面談等を行いながら確認調整中である。 ③基礎学力テストで高得点の生徒は、学習時間も増え、お得意定期考査でもよい結果を得られている。学習できていて生徒とできていない生徒の二極化し、固定化している生徒とできていない生徒の二極化は減少している。 1年次生:D3の割合18.5%→41.7%、Dゾーンの割合69.9%→78.3% 2年次生:D3の割合41.7%→45.1%、Dゾーンの割合77.8%→82.4% 3年次生:D3の割合35.1%→32.7%、Dゾーンの割合60.8%→61.5% ※1年4月～7月、2年昔は1年1月～7月、2年昔は1年11月～7月、3年昔は2年1月～7月、3年昔は2年11月～7月 ④4次回は2学期中間考査前に調査予定。 1年次生:43名、2年次生:81名、3年次生:65名(4月実施における家庭学習時間30分以内の人数)進路実現において、学習到達ゾーンを上げることが必要であることを浸透させ、学習時間を増やしていく。 ⑤教科において対策をさせていただいている。 ⑥1年次生:7.8%→5.0%、2年次生:2.8%→2.1%、3年次生:18.9%→7.7% ※期間は、③に同じ。 授業や土曜塾などにおいて各教科対策を講じていく。 ⑦3年次生5科ノ取獲得数:昔1名、今10名。全商3種目1級取得者1名、全商2種目1級取得者3名。普通科資格土曜塾受講者前期14名、日検7ノD2級1名、3級5名・日検情報処理3級1名合格。普通科3年制就職希望者が積極的にチャレンジ合格している。1年生も土曜塾に積極的に参加している。後期は2年普通科就職希望の生徒に土曜塾参加を促す。 ⑧3年生対象にAO推薦入試対策の外部講師による指導や外部講師に対するインタビューなどを行い、教職員対象にも研修会を行った。現在の国公立希望者数はのべ8名である。 ⑨10月より卒業研究に向けて学習を行う。 ⑩基礎学力テストの個別分析を行い、筆記試験対策などの個別指導を行った。 9/24現在の内定率:88% 今後も粘り強い指導をし、6年連続100%内定を目指す。	B	B	B
(2)生徒が安心・安全・快適に生活できるよう、品格と規律のある学校生活を確立するとともに、IT化を推進し、学習環境の一層の充実を図る。						
教務課	○授業規律の向上 生徒課・進路指導課と協力し、教師も生徒も「授業心得」を常に意識した状態で授業が行われるよう努めをかける。 ①1年次生学習オリエンテーション、年度最初の各学年集會等で授業心得について説明し学校全体の意識の統一を図る。 ②強化週間や実践アンケートなどを進めて、問題点・改善点を把握する。 ③定期的な教員相互の授業参観・授業巡回を呼びかける。 OIT化を推進する 情報管理委員会と協力し、わかりやすい授業を実践する方策の1つとして、また生徒が学習成果を表現する手段の1つとして、ICT活用をより推進する。 ④機器の使い勝手の良さを工夫する。 ⑤校内の実践者や実践法を紹介する。 ⑥職員会議時に校外研修参加者の報告を入れる。	○生徒課と協力し、各教室に掲示する授業心得を作成する。 「授業心得」実践の意義を伝え、8割以上の生徒から理解を得られる。 ②授業規律アンケートを実施し、「満足できる」に実施している等の肯定的な回答が、生徒については8割以上、教職員については7割以上と見られる。 ③教職員一人あたりの授業参観の回数が3回以上になる。 OIT化を推進する 「まずは課内メンバーが率先して授業の情報化を図り、課会議で報告し合う。」 転任者には昨年度の授業工夫アンケートの集計を配布 ・使用者70%以上 ・環境整備(カーテン設置) ・今年度の校内実践例のまとめ(2学期授業公開週間前) ・校外研修報告会2回	①1年次生学習オリエンテーションについては、学年・課を中心に実施した。学校生活、こと学習に円滑に取り組ませるためには一定の評価があったが、学年を担当する教員の負担、学習集団づくりへの取組にはさらに改善・工夫が求められる。 ②生徒課との合議で「授業規律アンケート」は行わないこととしたので、総務課の「学校アンケート」「学校満足度アンケート」の数値を見た。「授業の内容は工夫されわかりやすい」「生徒1人ひとりに応じた教科指導を行ってくれている」 生徒↑保護者↑教員↑ 「テスト以外にも多面的に評価してくれる」 生徒↑保護者↑ 「授業で先生の指導に熱意を感じる」 教員↑授業の充実改善に努めており成果を感じられる」 「授業の指導や方法について教員相互の研修を積極的に」「学習の評価では得点だけでなく興味関心態度提出物にも」「学習の評価では得点だけでなく興味関心態度提出物にも」 ③3年間の教職員の授業参観の回数は平均4.02回と年度当初の3回を上回ることであった。 OIT化 ・会議で課内メンバーでの情報交換を行っている。 ・転任者には昨年度の授業工夫アンケートの集計を配布 ・10月考査中にHR教室南側にカーテン設置 ・10月中旬に今年度の授業工夫アンケート実施 ・11月職員会議内でICT係が研修実施 ・授業でのICT活用者は77%となった。	B	B	A

担当部署	具体的な計画	達成基準	中間期の達成状況	中間自己評価	最終達成状況	最終自己評価	学校関係者評価
生徒課	○すべての生徒に身だしなみの重要性を自覚させることにより自己指導力を育成し、品位と規律のある学校生活を確立させる。また、中学校アンケートで「服装・髪型」に関する生活指導を全教員で粘り強く、自分を大切にすることを養う。 ②ルールやマナー意識の高揚を図り、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ③いつでもどこでも、明るく爽やかな挨拶ができる習慣を身につけさせる。	①2/3共通 「学校アンケートで「学校生活は基本的な生活習慣が身につくための指導をしてきている」の生徒評価が90%を超える。また、中学校アンケートで「服装・髪型」などの生活指導を適切に行っている」の評価が昨年を上回る。 ①論語手帳:生徒ころろえを携帯させ、考えて行動する習慣づくりを育成する。 ②ケータイ・スマホ依存症にならないよう呼びかけを行い、校内での指導を徹底していく。	①2/3共通 「全教員であいさつ運動・服装の声かけ指導、また、授業時の服装点検等に取り組むことにより、生徒の評価が90%を超える。しかし、一部は全体としては一定の効果のみ見られる。 ①論語手帳に生徒ころろえを携帯させたことにより、服装規定やルールの意識化に効果が見られる。 ②ケータイ・スマホの校内での使用ルールの徹底による確認したことにより、使用ルールの改善がみられた。	B	B	B	B
事務室	①校内危険・不両面への対応 ②安全安心な生活環境の整備	①定期巡回及び安全点検により、危険・不両面所を発見し、直ちにに対応する。 ②今年度実施の耐震補強工事において、生徒の安全を最優先に施工管理を行う。また、老朽化した施設設備の計画的な改修を進めていく。	①定期巡回等を行い、危険箇所については、直ちにに対応している。 ②耐震補強工事は、職員生徒等の協力で事故なく、生徒の安全を最優先に施工管理を行ってきた。老朽化した施設設備の計画的な改修を進めていく。	B	A	A	A
保健相談課	⑥自己の健康管理の確立を図り、自分を大切にすることを養う。 ①早期治療の重要性を理解させ、夏休みまでの治療向上をめざす。 ②保健室の有効活用を図る。 ③学校不適応の生徒(不登校生徒)へ早期対応を行う。 ④美化やマナー意識の高揚を図り、安全かつ快適な学習環境・生活空間を創る。 ⑤掃除にまじめに取り組む態度を身につけさせる。 ⑥食生活や食育の学習を向上させ、快適な生活空間を整える。 ⑦安全な教育環境をつくる。	①8月末目標:歯科35% 耳鼻科:70% 眼科:55%(昨年度同時期:26% 耳鼻科:66% 眼科:45%) ②年間10回以上保健室来室者目標10名以下(昨年度13名) ③曜日を決めて昼休みにカウンセラー室を開室し、相談しやすいう環境を整える。 ④行事の際に掃除をやり直さなくないように毎日の掃除ができる。 ⑤新しいゴミ分別ルールを理解し、行動できる。 ⑥安全点検を実施し、教育環境の不備により生徒が負担しないようにする。防災訓練を実施し、災害時の初動対応を生徒が身につける。	①8月末治療状況:歯科34% 耳鼻科87% 眼科100%。引き続き個別に治療を呼びかける。 ②保健室利用者が増加。SCや専門機関とも連携しながら保健相談課全員で生徒支援に関わっている(昨年度13名) ③曜日を決めて昼休みにカウンセラー室を開室し、相談しやすいう環境を整える。生徒会発案で生徒会・美化委員会・有志が中心に校内のトイレ掃除を夏休みに行ない、生徒の中から校内美化に対する意識が変化しつつあると思う。 ④美化委員と掃除場所の担当教員が一緒に清掃点検を行うようにした。生徒会発案で生徒会・美化委員会・有志が中心に校内のトイレ掃除を夏休みに行ない、生徒の中から校内美化に対する意識が変化しつつある。 ⑤紙パックと紙ゴミの分別回収を実施し、燃えるごみの減量に努める。 ⑥安全点検後は早速処理している。11月に防災訓練を実施し、抜き打ち防災訓練も行う予定である。	B	A	A	A
(3)生徒の自主的な活動を一層活性化し、部活動やボランティア活動の充実を図るとともに、カリキュラムを工夫し、ESD(持続発展教育)を推進する。							
総務課	①地元の小・中学校や町役場、商工会等と連携し、生徒が地域社会で活躍する場を運営する。 ②学校案内パンフレットやHPを活用し、学校のPR活動を積極的に推進する。 ③年度末にアンケートを行い、生徒の学校生活満足度を検証し、在校生への指導の結果を分析する。 ④生徒課と協力して、オープンスクールを生徒会主体の運営とする。 ⑤地域別進路説明会・中学校訪問の時期、内容を工夫する。	①ESD委員会や支援職員とも連携し、社会貢献活動を円滑に運営する。 ②学校案内パンフレットは5月中旬に完成。HPは週1回以上更新する。 ③年度末に分析結果を教職員へ周知徹底する。 ④オープンスクールの参加者人数が昨年より20名多くなった。一方で保護者の参加者は昨年より20名少なかった。「とてもよかった」の割合が70%以上となる。 ⑤地区別進路説明会において、参加者人数が昨年度以上となる。	①夏の社会貢献活動の参加者は昨年度を大幅に上回った。ESD同好会による小中学校放課後学習支援もスタートした。 ②学校案内パンフレットやHPは5月中旬に完成。HPは週1回以上更新する。 ③年度末に分析結果を教職員へ周知徹底する。 ④オープンスクールの参加者人数が昨年より20名多くなった。一方で保護者の参加者は昨年より20名少なかった。「とてもよかった」の割合が70%以上となる。 ⑤地区別進路説明会において、参加者人数が昨年度以上となる。	B	B	B	A
生徒課	○生徒の自主的な活動の一層の活性化を図り、主体的に行動できる生徒を育成する。 ①生徒会活動・委員会活動の活発な取り組みを通して、学校行事等の推進体制の確立を図る。 ②同好会活動の一層の活性化を図り、自主性・協働性・責任感を育成する。 ③ボランティア活動の充実を図り、社会に貢献できる生徒を育成する。	①学校満足度アンケートで「学校生活に意欲的に取り組んでいる」と「学校の生活は楽しい」の生徒評価が昨年を上回る。 ②部活動は活動のめりはり・充実化を図り、最終下校時刻を守るとともに、活気ある学校の雰囲気作りにも貢献してもらう。 ③各種ボランティアや地域貢献活動に、多くの生徒が意欲的に参加する。	①学校満足度アンケートは1月実施予定。 ②部活動は各部署の目標や活動方針を記入・提出してもらい、活動のめりはり・充実化を図り、活気ある学校の雰囲気を作るよう支援に取り組んだ。 ③各方面からの呼びかけにより、各種ボランティア・社会貢献活動が運営できているが、3年生の主力メンバーの後に続々新メンバーが不足している。	B	B	B	B
進路指導課	①昨年度から行われた探究学習をさらに深化・発展させ、カリキュラムの充実を図り、ICT機器の活用も視野に入れる。進路課行事と連携しながらカリキュラムを構築する。 ②アンケート結果より(満足度)集中学習会:1年次生約90%、2年次生約77%、3年次生約96% 各行事において満足度も高く、生徒が主体となって活動する場が多くなっている。	①開谷学LHR委員会や和気町支援職員の協力のもと、3年間を見通した探究学習のカリキュラムの構築が行われている。 ②アンケート結果より(満足度)集中学習会:1年次生約90%、2年次生約77%、3年次生約96% 各行事において満足度も高く、生徒が主体となって活動する場が多くなっている。	①開谷学LHR委員会や和気町支援職員の協力のもと、3年間を見通した探究学習のカリキュラムの構築が行われている。 ②アンケート結果より(満足度)集中学習会:1年次生約90%、2年次生約77%、3年次生約96% 各行事において満足度も高く、生徒が主体となって活動する場が多くなっている。	A	A	A	A